



山陽スピリット ニュース No.8

2017(平成29)年9月12日

発行：学校法人 山陽学園 広報・山陽スピリット推進室

「至高の愛」

社会福祉法人岡山博愛会理事長

更 井 哲 夫

山陽学園が131年の歴史を持ち、私たちの岡山博愛会は126年の歴史を持っております。共に戦災で全てを焼失し、涙の中で再建を果たしました。支えとなる柱があったから可能となった奇跡とも言えることです。それは理念として表されます。山陽学園では「愛と奉仕」であることは有名です。岡山博愛会ではその名前でもある「全ての人を愛する愛」です。創立者アダムス女史が「Loving All」より名付けました。その「愛」について考えて見ます。私達は色々な物を愛します。書物であったり、日常用いる家具であったり、また可愛がっているペットの動物であったりします。愛しているから価値が生まれるのです。人をも愛します。それは親子の愛、兄弟の愛、友情の愛、同志愛、恋人の愛、夫婦の愛などがあります。こうした愛は、欲望や、達成感を満足するものでもあります。山陽学園の、そして博愛会の「愛」は「アガペー」と呼ばれる愛です。友情や、知識を求める「フィロス」の愛、また惚れたハレタの「エロス」と呼ばれるものではありません。



徳川家直侯爵、北里博士、来会。

2列目左から2人目が上代先生 大正7(1918)年5月3日

理念としてのアガペーの愛は創立者によってはっきりと示されました。山陽学園を立ち上げた岡山教会の婦人たちは神様の愛に満たされ、婦人の自立に必要な学びを提供する学校を創りました。当時の岡山教会では、クリスチャンとなって、妾の立場から自立を求めた炭谷小梅さんがいた事からも歴史の気配が分かります。そのころ世界最大のキリスト教伝道団体であるアメリカンボードとその日本での中心であった同志社がらみで、多くの宣教師が岡山に招かれ、東山にミッションステーションを作って働いておりました。婦人宣教師も来ておまして、その中にアダムス女史がいました。彼女は米国最高のブリッジウォーター師範学校に学び、特に音楽に優れておりました。オルガンやスタインウェーのピアノも搬入し、これを用いて「ふるさと」等作曲した岡野貞一を上野音楽学校へ送り、山田耕作をも指導したことは彼等自身が書き残しております。

聖書のみをその教えの中心とするプロテスタント信仰は、伝道と共に勤勉、聖潔、奉仕を重んじるその生活から社会活動をも展開しました。それまでの日本社会には無かった「あなたは愛されているから価値がある」を掲げる教育の働きが始まったのです。

新約聖書は神様と人との新しい契約に基づいて書かれたものです。中心はヨハネの福音書3章16節の言葉「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」です。人は全て罪を犯しているため天国に入ることは出来ませんが、それでも神様は私達一人一人の全てを愛し、神様の側で一方的に気前良く人の罪を帳消しにして天国に呼び返して入ることが出来るようにしてくださった。イエス様が私達の罪の身代わりとなって十字架刑についてくださったからです。十字架が神様の愛のしるしとされているのはこのことです。神の愛は

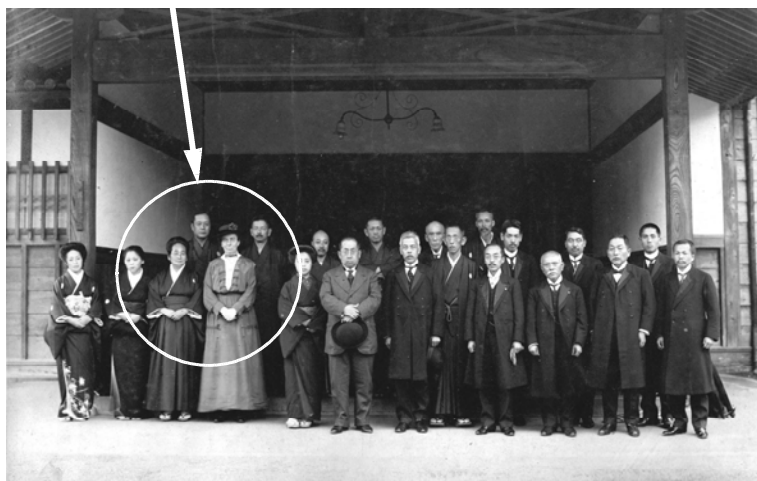
誰の上にも注がれ差別はありません。全ての人を愛する「愛」であり、求める人全てに、どんな時でも何処でも、特に苦しみ悩みの時にはしっかりとこの私を捉えてくださる「愛」なのです。この大きな「愛」を知ってしまったら人は変えられます。ヤクザが牧師になり、酒や博打、不品行から開放されてクリスチャンとなった人をたくさん知っております。この「至高の愛」を知るものは地上でのどんな困難にもひるむことはありません。ちょうど山陽学園を空襲の焼け跡から復興させ、丸焼けになった岡山博愛会を一度は解散決議までしていたのを取り消し、戦後の医療福祉の拠点として整備した働きが証拠です。

アダムス女史が25歳で岡山に着任したとき、既に上代淑先生は山陽英和におられました。米国留学より帰国された後もアダムス女史と上代先生は深い友情で結ばれ、それ以上に同じ聖書の信仰で共に歩きました。アダムスの博愛会は当時岡山で最も貧しく不衛生な場所での働きでしたが、上代先生はエリートとも言える山陽英和の生徒達と共にこの働きを支えてくださいました。昭和11年乳癌末期のアダムス女史が岡山を去るときには、オープンカーは山陽英和の前を通り上代先生や生徒さんたちともお別れしました。地上での別れでした。

人の愛は何によらず記憶から薄れていくものです。先日歌舞伎役者の市川海老蔵さんの奥様麻央さんが乳癌で



アダムス女史と上代先生



亡くなりました。海老蔵さんに残された麻央さんの言葉は「愛している」でした。最近4年前に作られた海老蔵さん自身のブログを見ました。幼いときに通ったキリスト教会の礼拝に出席した時の話でした。教会の外観、ホール、開いた聖書、讃美歌の写真と共に、教会出席が嬉しい事だとのメッセージが書かれていました。けっして色あせない神様の愛を求めていたのだと思いました。以前、夜の街で泥酔し、傷害事件を起こした海老蔵さんですが、麻央さんと出会いの後愛の大切さを見つけたのだと思います。二人の間で、愛の言葉をいっぱい話し、最後の時に伝えることが出来たのはすばらしいことです。

命がけの愛を、全ての人に届けることは私達にも出来ます。人生を歩む絶対の価値基準として確かに「愛」があるのです。いつまでもあせることなく、光り続け、多くの人を希望と喜びに満たし、生きる力を与えてくださる「至高の愛」があります。こんな私にも、あなたにも既に用意されている神様の「愛」に早く気付いてください。人生が変えられ、変わるのです。博愛会教会では毎週日曜日午前10時15分より礼拝のときを持っております。あなたは愛されているのです。朽ちることのない神様の愛が貴方を待っているのです。

更井哲夫先生プロフィール

- ・戦後ベビーブームの中、先代理事長更井良夫の長男として出生。
- ・姉は山陽学園高卒、同志社女子大でピアノを学ぶ。
- ・大安寺高一期生の後、岐阜大学医学部卒業。
- ・在学中よりフルート演奏、穂高岳の山歩きを楽しむ。
- ・卒業後の年、岡山大学第3内科にて膠原病を学び、S46年より岡山博愛会勤務。
- ・現在理事長職。
- ・H27年4月より山陽女子中学・高等学校の校医

幼いころ父良夫と共に数回上代先生の自宅を訪問したことを覚えている。

「写真提供：岡山博愛会病院」